

銅鏡

■ 出土地：首里城跡南殿地区

「まいコレ」では、収蔵庫に眠るイチ押し^{いっしゅ}の出土品を、月替わりでご紹介。

今月は、首里城跡南殿地区から発見された銅鏡です。

今回展示する銅鏡は、円盤^{えんばん}の径が約26cm、重さが770gあります。本来は持ち手のついた柄鏡^{えかがみ}でしたが、柄の部分は欠落しています。首里城南殿地区は、沖縄戦で破壊された後に琉球大学のコンクリート校舎が建てられていました。本資料は首里城復元にあたり、校舎撤去後の更地^{さらち}から採集されました。

展示している文様のある面は鏡の裏面で、松・鶴・亀の吉祥文様^{きっしょう}が描かれています。中央には岩に根を張る松、松の左下には亀と右下に鶴、左上には羽を広げ飛翔^{ひしょう}するもう一羽の鶴、そして松を挟んで「高砂^{たかさご}」の字が描かれています。また左端には、「天下一藤原光永^{めい}」と銘が記されています。

実際の鏡である表面^{おもて}には、文様はありません。現在は錆び^さびていて映りませんが、当時は磨かれた鏡面に姿を映したことでしょう。



実測図



表面（鏡面）